

令和7年9月10日



広報資料

水路記念日企画パネル展を開催します

～海図で見る日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」～

第一管区海上保安本部では、9月12日の水路記念日にあわせて、9月17日（水）から25日（木）まで、小樽市総合博物館において、海図で見る日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」と題したパネル展を開催します。

9月12日は、明治4年(1871年)に、海上保安庁海洋情報部の前身である水路局が兵部省海軍部内へ開設されてから154周年となる水路記念日になります。

例年、第一管区海上保安本部海洋情報部では、水路記念日にあわせて企画展示を開催しております。今回は、海図で見る日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」と題して、歴代の海図に記載されている小樽の文化遺産とそれらを繋ぐ小樽の歴史を解説したパネルを展示します。また、今年2月に実施した砕氷型巡視船「そうや」による海水観測時に撮影した写真パネルを展示し、小樽の文化遺産の普及啓発及び海上保安業務の理解促進を図ることを目的として開催します。

1 展示日時・場所

小樽市総合博物館本館エントランスホール（小樽市手宮1丁目3番6号）

9月17日（水）～25日（木） 午前9時30分～午後5時

（パネル展示会場は無料、24日（水）休館日）

2 主な展示物

- ・明治・大正・昭和期に刊行された海図及び解説パネル
- ・日本遺産「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」に関するパネル
- ・巡視船「そうや」から撮影した写真パネル
- ・日本遺産及び巡視船「そうや」に関する動画映像

水路記念日について

明治初期、次々に日本に來航した諸外国の艦船が、日本沿岸の測量を行い、海図を作るなどして日本周辺の地を明らかにしていく事態に、明治政府は国防のみならず海運のために自ら測量して海図を作製することの重要性を認識し、明治4年（1871年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（国の海洋調査機関）を設立し、組織的に我が国独自の海図の作製に取りかかりました。

現在では、海上保安庁がその業務を引き継ぎ、航海安全・海洋権益保全等のための海洋調査のほか、海洋情報の管理・提供も行っています。

海上保安庁では、この水路局の誕生した9月12日を水路記念日としています。

日本遺産とは

日本遺産（Japan Heritage）は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものになります。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけではなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とされています。

北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽のストーリー（令和7年2月認定）

かつて小説家・小林多喜二が「北海道の『心臓』みたいな都会である」と表し、日本の近代化を支え「北日本随一の都市」であった小樽。

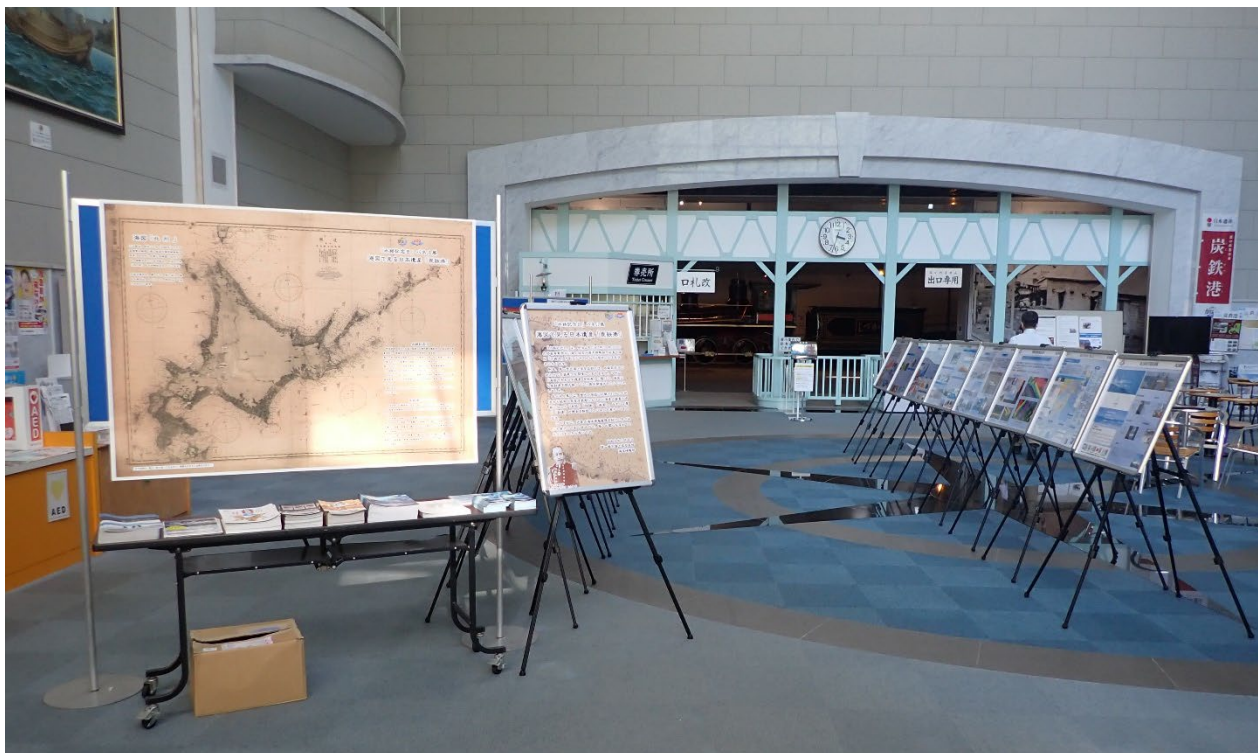
現在は、全国有数の観光都市となっていますが、高度経済成長期の中で「斜陽のまち」と呼ばれ、沈みかけた時期がありました。

その時、歴史的な遺産を守り、さらに活用しながらまちの再生を模索した小樽市民がいました。

小樽では明治から、まちの発展とともに未来の成功を夢見て小樽にきた漁夫、商人、船乗りなど多種多様な人々、さらに財を成した資本家たちによる「民（たみ）の力」で自らまちをつくり上げてきた歴史がありました。

小樽の黎明期から脈々と流れてきた「民の力」によって、元気を失った「北海道の心臓」は新たな鼓動を始めます。

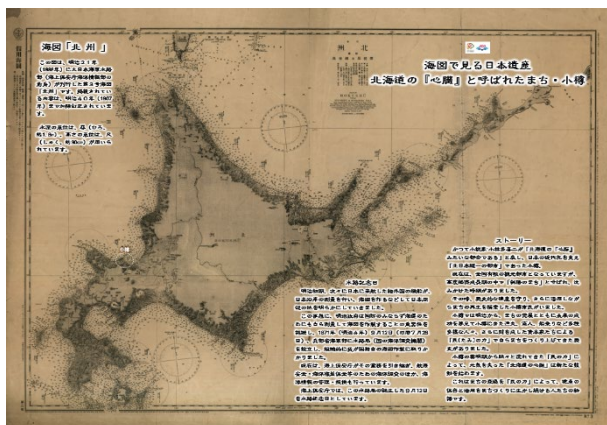
これはまちの衰退を「民の力」によって、遺産の保存と活用をまちづくりに生かし続ける人たちの物語です。



令和6年開催のパネル展示の様子（小樽市総合博物館エントランスホール）

■ 主な展示パネル

旧版海図パネル



海水写真パネル

